

2006年5月19日

## IPEX2006 にみる印刷界の展望

The Information through International Exhibition & Conference

-The View of the Printing Industry-

(Part 5)

国際印刷大学校 木下 堯博

### 経 過

- 1、IPEX2006 と印刷界の動向 (第1報) 直前レポート (2006年3月31日) HP
- 2、同上 (第2報) London, Birmingham, Cambridge, Norwich, Coventry, Leicester  
(2006年4月15日) HP
- 3、同上 (第3報) 出展内容 (2006年4月28日)
- 4、Investigation on the Printing Industry through IPEX2006 (Part 3) PPT
- 5、印刷界の発展を目指して (第4報) (2006年4月30日) 印刷ジャーナル JP06 特集掲載
- 6、IPEX2006 にみる印刷界の展望 (第5報) 要旨 (2006年5月19日)
- 7、The Information through International Exhibition & Conference  
-The View of the Printing Industry-(Part 5) PPT (100枚)

### 要 旨

PRINT05 から7ヶ月後、IPEX2006 が開催され、PRINT とのほぼ類似イベントもあったが、規模的には drupa に次ぐ展示会であった。展示会は社会的動向と技術進歩に左右され、Print では Mailing などが主題でもあった。今回はデジタル対応が主題であり、前回の IPEX2002 と比較すると、出展社数は1200社で300社減少し、使用ホールは10ホールとなり、前回の14ホール利用から4ホール減少した。(1) これは各地で国際展に準ずる展示会があり、一極集中型から分散傾向にあることと各分野の専門展示会(新聞、スクリーン印刷、ラベル印刷など)が行われていることにある。ドイツが印刷及び機材などでリーダーシップがあるのは Gutenberg (1447年)からの印刷文化の継承とイギリスでは Caxton (1476年)の影響があるものと推定される。

21世紀に入り4大国際展は drupa2000 に始まり IGAS2003 までと drupa2004 から IPEX2006 とほぼふためぐりしたことになり、規模は年々、少しずつ縮小してきている。しかし、世界の GDP は拡大を続け、それに伴う印刷の出荷額も増大している。この中で効率的印刷生産が求められている。そこで drupa2000 での Work Flow が JDF に、CIP-3 が CIP-4 に印刷生産管理が経営管理にまで拡大され、CTP は Processless に、更にデジタル印刷の急速な進展など印刷界がデジタル志向と IT 活用が必要不可欠となって来た。

5E (Energy, Environment, E-World, Education, Economy) は世界が求めているアイテムであり、各国の GDP と印刷の出荷額と関連性がある。GDP 上位20ヶ国で世界の印

刷の80%のマーケットを消化している。しかし発展途上国の技術レベルの向上により、20ヶ国のパイは小さくなり、180ヶ国以上の途上国は紙幣、切手、商品券など内製化を図るようになる。世界のGDPは2004年に40.2兆ドルとなり、うちアメリカは11.7兆ドル(29.1%)、日本4.6兆ドル(11.4%)、ドイツ2.7兆ドル(6.7%)となり、印刷出荷額との関連が求められる。アメリカの2005年4Q期はGDP1.8%で低迷したが、2006年1Q期は4.8%に増大した。しかしFRB(アメリカ中央銀行)では2006年2Q期(4~6月)及びそれ以降は低迷すると予想している。

今回行われたINNOV8ではInternational Dayがあり、各国の最新の情報が発表された。このようなInternational day、Case Study、Keynote、Program発表などのShort Presentationは参加者に新しい情報を与えてくれた。また、各出展社による講演会は様々な規模での開催であったが、劇場形式やコマ内などでもあり、4日間の日程の中で時間の調整に苦労した。Print Cityの記者発表が初日(4月4日)9時30分から行われ、drupa2004の再現であったが、Agfaが抜けMAN-Rolandを中心として約40社が参加した。各社の展示と統一テーマによる共同出展があった。これはEUの前身である欧州共同体の精神であろう。このPrint Cityでは印刷の高付加価値を求め各社が共同で展開していることは将来の印刷の方向性を示唆している。ヨーロッパ39ヶ国のGDPは世界の約三分之一を占め年々上昇傾向にあり、その中でも2003年から2004年までの年間成長率はポーランド15.3%増(27位)、チェコ18.9%(40位)が伸び率も高く、印刷出荷額も上昇しているであろう。ポーランドで発行しているPrint Partner 2006年4月号はRFIDを特集していて、この出版社と記者クラブで話す機会があった。西ヨーロッパに於ける版式の2000年から2010年までの予想はデジタル印刷が367%の伸び、Wide Formatが203%の高い伸び率をそれぞれ示している。(2)

印刷技術動向として、Digital Printing Technology, Web Based Technology, Automation Technology, Computer Based Technology, Printing Based Technologyがあり、IPEXでは実際の運用が行われた。また、会場への入り口(3ヶ所)では無料の最新技術レポート[分野別会場案内を含む](MIS Systems & JDF Trail, Print Finishing & Mailing Solutions Trail, Mac User Design & Creative Trail, CTP Trail, Technology Report)が置かれていて、最新の技術情報が広く世界にひろがった。

今回のNew Productは事前登録で267件あり、前回よりも大幅に増大した。Prepress部門ではPlate Rite 36000,32000(Screen), Magnus 800(Kodak), Brillia HD Pro T & V(Fuji Film)などPress部門ではANI Color Inking System (Heidelberg),52 DI(Presstek), Direct Drive Technology (MAN-Roland)などがある。大学の出展はLondon College of Printingから名称を変更したLondon College of Communication(LCC), Leeds College of Technologyの2大学にとどまり、LCTではImage Science & Technologyの第3回ヨーロッパ会議を6月19日から3日間の日程で開催する。PIRAは印刷、用紙などの研究機関でDigital Demand技術誌などを無料配布していて、アメリカのGATFと並び権威ある組織

である。

IPEX2002 ではロンドンを中心に視察したが、今回は点から面への行動を行い、ケンブリッジ大学、ノビッチのジャロルド印刷博物館などとの交流を行った。ケンブリッジ大学では Gutenberg Jahr Buch のインデックス調査と日本語学科での交流を行い、ユネスコの会議で報告した日本の印刷発展史の論文の紹介を行った。(3) ロンドン市にある London Metropolitan University は最近の IT 技術や Media Communication など新しい学科が設置されている。

帰国後、韓国で IPEX2006 の報告を行い、東国大学校ではアレロパシー（他感作用）の環境研究の方向を見出した。同大学のコロイド研究所は韓国企業の会員制であり、設備の利用と博士号の審査も行う。また、大学院印刷画像課程の中心的役割を果たしている。

日本では 2006 年 4 月からの大気汚染防止法一部改正で VOC 排出規制が強化され、印刷工場からの排出は濃度測定が義務づけられる。日本 WPA で測定した結果、水あり平版で 300 ppm 以上、水なし平版で 100ppm 以下となり、洗い油、IPA などが VOC の発生源との報告がある。オフセット印刷工場では 400ppmc、グラビア印刷工場で 700ppmc の排出基準があり、年 2 回の検査が行われる。

Paju Book City は出版・印刷・同関連企業が入り、相互に協力して企業活動を行っている。LG とフィリップスとの合弁企業も液晶ディスプレイで世界最大の工場をここに設立した。現在 2 2 社の印刷企業が進出し、その内の(株)宝晋斎と TARA tps (株)を見学し意見交換をした。いずれも枚葉とオフ輪、CTP を中心とし、ドイツからの Prepress, Press 機材で運用している。これはかつて旧西ドイツと同じ分断国家であり、相互の交流が続いているものと思われる。今回の IPEX のツアーでも Heidelberg Korea が印刷企業から 80 名の団体を編成し、プラーハ経由で渡英していることから理解出来る。

小森コーポレーションの PDC-S はインキ壺 30 key の印刷情報 (L\*,a\*,b\*, Dot Gain, Trapping, Grey Balance など 10 項目) が得られる。今回は PDC-S としてより迅速処理の対応可能な X-Rite の測色機をリリースしていた。あらかじめ決められている Target 値からの差が瞬時に求められそれからの修正も迅速に行われ印刷品質と生産性に寄与出来る。

IPEX2006 の Key Words は MDPW ( More Digitalization、 Productivity、 Wide Format ) とした。IPEX2002 では教育・研究部門の特設ホールでの展示と会議があり、mDEC ( more Digitalization、 Education、 Customization ) としている。

IPEX2006 での展示と会議内容は世界的な広がりを見せ、印刷技術の向上により、印刷産業は一層の進展を見せるであろう。詳細は配布 OHP (約 100 コマ) をご覧下さい。

#### 参考文献

- ( 1 ) IPEX2006、2002 総合カタログ
- ( 2 ) PIRA; Digital Demand ( March/April, 2006 )
- ( 3 ) Akihiro KINOSHITA; Gutenberg JahrBuch Vol 73 pp31~35 (1998)

CD 勉強会 2006年5月19日 連絡先 ; E Mail [kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp](mailto:kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp)